

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：74305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370811

研究課題名(和文)戦後教員組合運動の地域社会史的研究 - 大教組所蔵文書の史料論的検討を通じて -

研究課題名(英文)The Historical Study of Post-War Teachers Union Movement Focused on Local Communities - Based on the Research of the Documents of the Osaka Teachers Union (Daikyoso).

研究代表者

坂井田 徹(森下徹)(SAKAIDA, TORU)

公益社団法人部落問題研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：40529921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大教組(大阪教職員組合)が所蔵する、未整理文書群の整理を行い、保存措置を講ずるとともに、5900点におよぶ史料全点の目録を作成した。あわせて関係者からの聞き取り調査や他府県教組の所蔵する文書との比較研究を行い、大教組文書の来歴や性格について明らかにした。以上の研究成果を調査報告書として刊行し、大教組文書を社会運動史研究や地域社会史研究の基礎史料として活用する条件を整備することができた。

研究成果の概要(英文)：We have checked and sorted-out the documents and materials left untouched in the Osaka Teachers Union (Daikyoso) and adopted preservation treatment for them. We have made up a file for 5,900 items. We have conducted the hearings and made reference to the documents owned by the teachers unions in other prefectures. Thus we made it clear the historical significance of Daikyoso documents.

We have published a report of our research findings of the documents and materials belong to Daikyoso. Thus it was made possible to utilize those as the pabulum for the historical studies of social movements and local communities..

研究分野：日本近現代史

キーワード：日本史 地域社会史 社会運動史 現代史 教育史

1. 研究開始当初の背景

(1)近年、社会運動史への関心がふたたび高まりをみせており、社会運動史研究の新たな方法や視点をめぐる模索がなされている。

研究代表者もいくつかの学会報告において、地域における民主主義の成長という視点から社会運動史を再構成することをめざし、地域社会構造を基礎に展開される諸勢力の対抗として、社会運動を実証的客観的に把握する方法、つまり、地域社会構造の解明と社会運動史を一体のものとして捉える方法を提起してきた。

(2)こうした観点から注目されるのは、戦後教員組合運動である。これまでに研究代表者は、主として大阪府泉北地域を対象として、地域社会構造の分析を進めるとともに、泉北教職員組合(泉北教組)の活動や教育実践を一次史料の発掘や関係者からの聞き取り調査にもとづき実証的に研究し、以下の諸点を明らかにしてきた。

大都市近郊に位置する泉北地域では、高度成長期まで基本的に近代行政村が小・中学校の校区と一致し、校長も地元旧家の出身であることが多く、教員は地域の知識人であり、まさに、小・中学校は「村の学校」であり、地域の文化センターであったこと。

また、1950年代までは、校長層を中心に教員組合が組織され、文化運動や平和運動などの中核を担うなど、地域社会における戦後民主主義の主要な担い手であったこと。

学校や教員、教員組合が以上のような役割を果たすことができた背景として、校長層主導の組合組織であったという側面とともに、地道な教育実践活動をつうじた子ども、父母、地域社会との結びつきがあったことが重要であること。

(3)以上のように、戦後の教員組合運動は、地域社会と社会運動をむすぶ結節点に位置していたのであり、地域における民主主義の成長という観点から、地域社会との関係において社会運動史を捉え直す格好の対象であるといえよう。

そこで、本研究では、大阪教職員組合が所蔵する史料のうち、『大教組運動』第1巻(1990年刊)、第2巻(1994年刊)編纂のために収集されたものの、未整理状態にある文書群(段ボール約80数箱相当)について史料論にもとづく保存・整理作業を実施し、社会運動史研究の基礎資料として活用できる条件を整備するとともに、大教組文書研究会を組織して、これら文書群の総合的研究に取り組み、戦後大阪における教員組合運動や大教組が参加したさまざまな社会運動の展開について、民主主義の発展という観点から、地域社会との関わりを重視して、多面的実証的に検討を加えるものである。

2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、まず第1に、大教組文書研究会を組織して、大教組所蔵の未整理文書群について、適切な保存措置を講じ、資料の整理作業を実施し、全点の目録を作成するとともに、文書群の史料論的検討を行うことである。

具体的には、文書箱・文書封筒(いずれも中性紙仕様)への詰め替え、必要な補修などを行ったうえで、現状記録方式によって文書全点の目録を作成し、重要資料については翻刻作業を行う。目録は、パソコンに入力し、データベース化する。

また、文書群の伝来を明らかにするとともに、大教組書記局所蔵の関連資料や大阪産業労働資料館など他機関に所蔵されている大教組関係資料、あるいは他府県の教職員組合所蔵資料などとの比較検討を行い、文書群の性格や特徴を明確にする。

(2)目的の第2は、本文書群を社会運動史の基礎資料として広く活用できるようにするため調査報告書を刊行することである。報告書は、全点の史料目録のほか、文書群の史料論的研究にもとづく史料解題や史料紹介、重要史料の翻刻、聞き取り調査のまとめなどを掲載する。

(3)以上をふまえて、本文書群を活用して、戦後大阪における教員組合運動に関する研究を、地域社会構造との関わりを重視して総合的多面的にすすめることが第3の目的である。

本文書群からは、大教組の結成過程のほか、教育研究大会や平和教育、同和教育など大教組が取り組んだ諸運動や教育実践の実態にせまることができる。また、大教組の運動や教育実践からは、戦後直後から高度成長期にかけての地域社会の構造や子ども・父母の生活実態の一端を照射することも可能となる。

本文書群の総合的な研究を通じて、戦後大阪における社会運動の展開や地域における民主主義の発展過程の構造的把握を前進させるとともに、戦後社会運動史研究の新たな視点や方法を実証的に示そうとするものである。

3. 研究の方法

研究代表者を中心に、連携研究者および研究協力者(社会運動史や近現代史、地域史を専攻する大学院生、学生ほか)の協力のもと、大教組文書研究会を組織して研究を推進する。

大教組文書研究会では、毎月1~2日程度、定期的に研究会を開催し、文書群の整理作業を行うとともに、文書群の史料論的研究に共同で取り組む。

(1)文書整理作業

まず第1に、史料の全体を把握した上で、

保存用文書箱（中性紙仕様）への詰め替えを行う。あわせて、痛みの激しい簿冊については、簡易な補修を施す。

第2に、現状記録の方法によりながら、資料1点ごとの目録（史料番号、表題、年月日、作成者、宛先、備考など）を作成する。資料は1点ごと文書封筒（中性紙仕様）に収納する。また、痛みの激しい文書についてはデジタルデータ化を行い、原本の保存措置を施す。

第3は、目録データをパソコン入力し、データベースを作成する。

第4に、重要資料を選定し、資料の翻刻を行う。

(2)大教組文書の史料論的研究

文書群の来歴の解明、関連史料群との比較検討のふたつの観点から調査研究をすすめる。

文書群の来歴

本文書群は、『大教組運動史』編纂のために、元大教組役員から収集した文書を中心とし、このほか勤評闘争時などに大教組事務所から警察に押収され、のちに返還された文書など、性格の異なるいくつかの文書群から構成されている。

大教組がこれら文書群を収集した経緯やルートなど明らかにするとともに、大教組の所蔵となった後、現在までの文書の保存状態についても解明する。

そのため、元大教組役員や『大教組運動史』編纂に関わったメンバーのほか、文書管理を担当してきた大教組書記からの聞き取り調査を実施する。

文書群の性格、特徴

本文書群の性格、特徴を明らかにするため関連資料群との比較検討を行う。大教組には、今回調査の対象とする文書群のほかにも、本部書庫に、大会・中央委員会関係史料、機関誌、教研大会関係資料などがまとまって残っており、これら文書群との関連や内容の異同などを比較検討する。

また、教員組合関係資料を所蔵する他機関や他府県教組に調査に赴き、本文書群との比較検討を行う。

4. 研究成果

大教組文書研究会として、2014年から2016年度の3年間で以下のような活動を行った。

(1)資料整理作業

合計45回の資料整理作業を実施した。

史料目録

段ボール80数箱におよぶ未整理文書群全点について、中性紙文書箱や中世紙文書封筒への詰め替えなどの保存措置を施すとともに、史料目録を作成した。その総点数は5900点をこえる。

デジタルデータ化

16 ミリフィルム映像についてはデジタル

データ化をはかった。

(2)研究報告

合計4回の研究報告会を開催し、奈良県教組や奥丹教組など他府県教組所蔵文書との比較や社会運動史研究の方法についての検討を行った。

(3)聞き取り調査

元大教組役員や『大教組運動史』編纂関係者、元大教組書記ら合計6人から聞き取り調査を行い、文書群の来歴や『大教組運動史』の編纂過程などの解明に努めた。

(4)関連機関の史料調査

京都府教職員組合（京都市）、高知県教職員組合（高知市）、奈良県教職員組合（奈良市）、奥丹後教職員組合（京都府京丹後市）や北原文庫（部落問題研究所所蔵・京都市）、高知市立自由民権記念館（高知市）などを見学し、近現代文書の保存整理方法を学ぶとともに、大教組文書と他府県教組の所蔵する文書群との比較検討を行った。

(5)報告書の刊行

研究成果のまとめとして、報告書『大教組文書の地域社会史的研究』を刊行した。報告書には、文書全点の目録と史料解題を掲載するとともに、聞き取り調査の成果をまとめた。また、重要史料については一部翻刻や史料紹介を行った。大教組文書を社会運動史研究や地域社会史研究の重要史料として活用する基礎的な条件整備を行うことができた。

以上の研究活動を通じて、大教組文書は、戦前の青年教師団に関する史料から1990年代年代のものまで含まれるが、1950～60年代の史料が大半を占めること。

『大教組運動史』編纂のために収集したり、元大教組役員ら関係者から提供された史料が中心を占め、勤評闘争時に警察に押収され、その後、返却された史料もふくまれること。

そのため、大教組本部だけでなく、婦人部や青年部などの各専門部や泉北、吹田、茨木など各支部、あるいは分会単位の史料も少なくないこと。

このほか母親運動、安保闘争、公害闘争など大教組が参加した社会運動に関する資料も多いこと、などが明らかとなった。

このように、大教組文書からは、大教組本部および各支部の運動や教育実践だけでなく、大教組が関わった大阪における様々な社会運動の展開を具体的に知ることができる。また、こうした運動や教育実践からは、戦後大阪の地域社会の構造とその変容、子どもたち・父母たちの生活の実態も垣間見える。質量ともに貴重な文書群であり、まさに地域社会構造分析と社会運動史研究を一体のものとして検討する、またとない史料であること

が明らかとなったといえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

坂井田 徹(森下 徹)、信太山丘陵をめぐる軍隊と地域社会 信太山演習場「解放」運動を中心に、市大日本史、査読あり、18号、2015、72-93

坂井田 徹(森下 徹)、大教組文書の整理と活用、部落問題研究、査読あり、216号、2016、96-105

〔学会発表〕(計1件)

坂井田 徹(森下 徹)、信太山丘陵をめぐる軍隊と地域社会 信太山演習場「解放」運動を中心に、大阪市立大学日本史学会、2014年5月17日、大阪市立大学学術情報総合センター

〔図書〕(計1件)

坂井田 徹(森下 徹)他、戦後教員組合運動の地域社会的研究 大教組文書の地域社会史的研究を通じて、2017、226

6. 研究組織

(1)研究代表者

坂井田 徹(森下 徹)(SAKAIDA, Toru)
公益社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：40529921

(3)連携研究者

西尾 泰広(NISHIO, Yasuhiro)
公益社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：70469641